

「寺院とAI」

日本テンプルヴァン（株） 井上拓郎

「フィジカルAI」

4年に一度開催されるアジア最大のスポーツの祭典が、2026年9月19日から愛知県名古屋市中で行われます。アジア競技大会（Asian Games 2026）と言われるこの大会は、水泳競技、陸上競技、野球やサッカーといったお馴染みの競技以外にも、カバディ、セパタクロ、武術太極拳、囲碁、Eスポーツといった、アジア競技大会ならではの独自競技も行われます。ここで言うEスポーツ（エレクトロニック・スポーツ）とは、コンピューターゲームやビデオゲームを使った対戦を行う競技の事を言いますが、陸上や水泳競技の様な、参加者自身が自らの心技体に磨きをかけて行う競技と違い、心、知、体（プレッシャーに負けないメンタル、ゲーム特性の把握、動体視力や正確な操作）に磨きをかけて行う競技と言ってもいいかも知れません。Eスポーツが画面上の仮想空間で人間がキャラクターなどを操作して行う競技なのに対して、センサーやカメラで物理空間（現実世界）を認識・理解し、自律的に行動する人型ロボット（フィジカルAI）

に陸上競技やサッカーなどで競わせる、そんな世界大会が先日、中国の北京で開催されました。今年で2回目の開催となる世界人型ロボット運動会には、日本をはじめとする世界16カ国から2000体以上人型ロボットが参加しましたが、なかでも100メートル走で二足歩行型のロボットが人間の世界記録である、ウサイン・ボルト氏の9秒58を上回る8秒64の記録を出し話題を集めました。昨年の同競技の記録21秒50から比べて、格段に速くなっており、技術革新のスピードが加速度的に増してきている事が判ります。特に中国における人型ロボットの開発は、ここ数年でアメリカに並ぶほどの勢いで進歩しており、中国Unnitree Robotics社製のUnnitree G1という人型ロボットが世界トップシェアとなっております。この「Unnitree G1」に京都大学とベンチャー企業のテラバース、及びXNOVAが共同開発した「仏教対話型AIブッダロボット」を搭載した「ブッダロイド」なるものがあります。合掌や礼、座禅などの宗教的所作が出来るだけではなく、相談者の問いに仏教の經典より導き出した回答を対話でしてくれるそうです。宗教的な冒とくであるといった批判

もあり、賛否両論ある様ですが、近い将来、僧侶型ロボットが僧籍を得る日が来るのでしょうか。

「寺院とAI」

AIにはフィジカルAIと生成AIなるものがあり、フィジカルAIが人型ロボットや機械であるのに対して、生成AIはインターネット上でテキストや画像を基に情報処理やコンテンツ生成を行うものになります。生成AIの活用方法としては、行事のチラシや資料の作成、総代会や役員会などの会議音声から議事録の作成や、檀信徒への案内文章の作成といった事務負担の軽減や、法話のネタ出しや、戒名の候補の作成などのといった参考情報としての活用法などがあげられます。昔から戒名ソフトなるものがあり、機械的に自動生成される戒名には否定的な見解の方が多くいらつしやいましたが、そのまま使う訳ではなく、あくまで候補の参考として活用される方がいらつしやる様です。フィジカルAIの活用方法では、施設内でロボット掃除機が稼働しているご寺院も見かけるようになりました。生成AIもフィジカルAIも倫理観を持って上手に活用する事により、日常業務の負担を軽減し、人手不足を補う有効な手段となるでしょう。